

No.8 第2786回 令和5年9月4日

今週の歌:君が代・我等の生業

プログラム 「卓 話」
藤原悦男会員、園田純也会員

会長 高瀬幸一郎 幹事 東口喜樹
例会日 月曜日 12:30-13:30
例会場 西協ロイヤルホテル 2F Tel:0795(23)2000
事務局 西協商工会議所内
〒677-0015 西協市西協 990

RIテーマ : CREATE HOPE in the WORLD ~世界に希望を生み出そう

本月のお祝い

- 誕生日 おめでとうございます。
 - 9/5 吉田 康志会員
 - 9/9 矢納 利夫会員
- 結婚記念日 おめでとうございます。
 - 9/1 東口 喜樹会員
 - 9/7 後藤 直樹会員
 - 9/11 笹倉 照暉会員
 - 9/18 蘆田 裕三会員
- 連続出席 おめでとうございます。
 - 38 ㇿ年 圓井 悦二会員
 - 14 ㇿ年 来住 周亮会員
 - 11 ㇿ年 園田 純也会員
 - 1 ㇿ年 廣中 幸司会員

表彰

第 20 回米山功労者
井村 正身会員
第 4 回米山功労者
園田 純也会員



8月28日(月) 第2785例会記録

◎出席・・・会員数 47 名 出席 36 名 MU 3 名
(出席免除会員 10 名・休会 3 名)

会長の時間

高瀬幸一郎会長

祖父は曾祖父とともに 20 歳の時(昭和 3 年)に高瀬味噌を今でいう起業しました。私が 20 歳のときはのんびりしたボンボンで、祖父の起業家精神をその当時理解できるものではありませんでした。私の体たらくに業を煮やした祖父に夏休みにこっぴどく怒られました。さすが元陸軍大尉の説教はたいへん恐ろしく感じたことを夏になるとよく思い出します。当時の私は学生ですので、当然「学ぶ人(?)」、「与えられる人」でした。本日のゲストのインターアクトクラブの皆さんも同じでしょう。今、大学を卒業してから 40 年以上経過し、このおじさんは「教える人」、「与える人」にかわったのでしょうか。福山雅治のうたのように「与えるひとにかわっていけるなら」になれたのでしょうか。実際のところ、「教える人」、「与える人」になっても時として「学ぶ人」、「与えられる人」になっているのが現実です。そこにこそ人生のコクがあり、深さがあり、楽しさがあります。私は調味



料屋ですので「コク」という言葉が大好きです。そういう意味ではインターアクトクラブは「与える人」になるための練習の場であるかもしれません。夏になると思い出す私の思い出はへんなほうにいきましたが、爺さんは今の私をあの世でどう見ているでしょうか。

幹事報告 (来信)

- ガバナー事務所より、秋の「第 21 回ロータリー全国囲碁大会」のご案内
10 月 21 日(土) 10:00~ 於:日本棋院本院
- 西協多可新人高校駅伝競走大会実行委員会より、第 16 回西協多可新人高校駅伝競走大会の協賛について(依頼)

(報告)

- ・8/21 故齋藤会員のお参りにご参列いただいた皆さん、ありがとうございました。
- ・令和 5 年 7 月秋田豪雨災害の義援金箱をまわしますので、ご協力お願いします。

委員会報告

○青少年奉仕委員会

廣中幸司委員

8 月 26 日(土)、危機管理・青少年奉仕セミナーがポートピアホテルで開催され、出席して参りました。「ロータリアンはどうあるべきか」ということで、個人として又事業において高潔さと高い倫理基準をもって行動するというのを改めて周知して下さいということでした。また青少年活動における個人情報取り扱いにも十分意を頂きたいということでした。

ニコニコ箱

- 井村会員 先日吉田会員にお世話になりました。
- 矢納会員 8/21 齋藤会員のお参りの際、金田会員にお世話になりました。
- 高瀬(幸)会員 廣中会員、危機管理・青少年セミナーお疲れ様でした。
- 蘆田会員 先日は園田会員にお世話になりました。ありがとうございました。

※本日のニコニコ 6,000 円
誕生日・結婚記念日・連続出席 5,000 円
秋田豪雨災害義援金 39,000 円
※本年度累計額 (8/28 現在) 315,000 円

🌸 本日の花: ヒベリカム・リンドウ

プログラム

「令和5年 西脇高校インターアクト部 活動報告」

西脇高等学校インターアクト部です。副会長の2年生竹内美月です。会計の1年生藤原悠人です。生活情報科の小林萌衣です。本日はよろしくお祈りします。

<発表者:1年藤原悠人>

インターアクト部は西脇高等学校生徒会執行部などと連携して、さまざまなイベントでのボランティア活動や募金活動、清掃活動、研修、交流会などに参加しています。令和4年度は、コロナの影響を受け、実際にできた活動はまだ少ないものでしたが、本日は昨年の報告会以降の活動について、説明させていただきます。

【赤い羽根共同募金】

2022年10月30日に茜が丘複合施設 Miraie で行われたみらフェスにて赤い羽根共同募金を行いました。午前11時から14時の3時間行い、集まったお金は兵庫県共同募金会に寄附しました。インターアクト部員だけでなく、みらフェスに参加していたギター部や野球部もこの赤い羽根共同募金に参加しました。

【インターアクト地区年次大会】

2022年11月23日にネスタリゾート神戸で実施されたインターアクト地区年次大会に参加しました。チームごとに分かれ、協力しながらゲーム(チームビルディング等)で他チームと競い合いました。初めは、初対面の人たちばかりでお互いコミュニケーションが取れず、失敗することがありましたが、話し合い、お互いを知ることによって協力することができ、最終的には、優勝することができました。各インターアクトクラブとの交流を通して、私たちのこれからの活動で活かせそうなことを学ぶことができました。

【校内献血活動】

2022年12月21日に校内にて献血活動を行いました。事前にアンケートを実施するなど、より多くの人が献血に興味を持ってもらえるように工夫をした結果、たくさんの人が献血に参加してくれました。

【姫路城周辺の奉仕活動】

2023年2月5日に姫路女学院高等学校の方が企画した姫路城清掃活動に参加しました。枯葉などがたまりやすい溝を掃除しました。世界遺産に触れて奉仕活動を行うことで、世界遺産を守っていかうという意識を持つことができました。

【海洋漂着物清掃】

2023年3月21日に兵庫県豊岡市 猫崎半島 賀嶋公園で行われた漂着物回収ボランティアに参加しました。2月や3月は海流の影響で漂着物が多い時期らしく、たくさんの漂着物がありました。西脇市にいと海に触れる機会がありませんでしたが、このボランティアに参加して、海が抱える問題について興味や関心を持つようになり、そして、どのような影響があるのか、どんな取り組みが行われているのか、私たちにできることは何なのかを考える良い機会になりました。

【記念式典オリナスホールロータリーバザー】

2023年4月22日にオリナスホールでロータリーバザーと募金活動を行いました。兵庫県立西脇北高等学校の方と一緒に活動しました。バザーでの売上金や募金活動で集まったお金はポリオ根絶のためポリオプラス基金に寄附しました。

【ロータリーファミリーの集い】

2023年3月4日に神戸ポートピアホテルで行われたロータリーファミリーの集いに参加しました。ここでは、実際に海外で活動する方や、海外から日本に来て下さった方のお話を聞きました。

【文化祭】

2023年6月16日文化祭では、クッキー販売と、東北ボランティア支援バザーを行いました。クッキー販売売り上げは1万円程で、そのお金は東北ボランティアの資金に使用しました。クッキーは販売開始からとても好評ですぐに売り切れていました。

<発表者:2年小林萌衣>

つづきまして、今年7月に参加した東北ボランティアの活動報告に移ります。

今年、令和5年7月15日から17日、コロナ禍で中断していた東北ボランティアに4年ぶりに参加することができました。2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。その翌年から西脇高等学校は10年間ボランティア活動を続けています。

平成24年3月27日から29日まで、生徒111名が参加してがれき処理と入谷小学校の交流をした第1回目を皮切りに、西脇高等学校は毎年1回、「東北を忘れない、東北を応援する」という気持ちをこのボランティアを通して表現してきました。

そして、この活動がこれまで続けてこられたのは、ロータリークラブ様からの支援金や、兵庫県若者ボランティアの助成金を頂けたおかげです。ロータリークラブ様には、まず最初にお礼を申し上げます。いつもご支援本当にありがとうございます。

次に活動の目的を説明します。

①復興支援ボランティア活動で築いてきた絆を大切に、生徒が主体的に計画した「ワークショップ」及び「夕涼み会」を開催し、入谷復興住宅の方との交流を図り、西脇高校が目指す「豊かな自己表現に挑む行動力のある人間」を育む。

②ボランティア活動を通して、相手の心に寄り添い、人のために活動する喜びを知ると共に、自己形成を育む。また震災の恐さ、命を守る行動の在り方等を、現地を訪れることでより理解を深め、防災意識を高めたい。

次に活動の準備について説明します。

- ・5月12日(金)参加希望者対象の説明会開催
希望者47名が応募しましたが、バス1台分の定員の関係で抽選により37名に絞りました。
- ・6月19日(月)第1回企画会議
団長を決め、活動の班分け、現地で行うボランティアの案を出し合いました。
- ・6月26日(月)第2回企画会議
現地の集会所で開くワークショップを検討しました。
- ・7月6日(木)第3回企画会議
夕涼み会(交流会の名前です)の出し物を検討

しました。期末考査を終え、この日から買い出しや準備物の作成を班別に大急ぎで行いました。

・7月12日(水) 第4回企画会議

出発まで3日とせまり、この日は学校で実際にリハーサルをし、屋台で出す料理の調理と試食もしました。

・7月14日(金) 前日

翌日の出発は朝が早いので、食材やテントを含む大量の荷物を最終確認し、玄関にまとめ保管しました。準備は万端です。

7月15日、出発の日です。朝5時に学校に集合し荷物をバスに積み込み、出発式を行いました。校長先生のお話や団長からのあいさつを聞きました。6時に西脇高校を出発し、舞鶴道、北陸道、東北道を通り13時間かけて南三陸町まで移動しました。宿泊所であるまなびの里「いりやど」に19時に到着したころには、あたりが薄暗くなっていました。

南三陸まなびの里「いりやど」は、震災を後世に伝える研修センターを併設しています。代表の阿部さんご自身も被災者です。阿部さんは当時、南三陸町の役場で勤務されていました。津波に襲われた庁舎は波に飲まれ、たくさんの同僚の方が命を落とされました。阿部さんはその日出張に出でおられ、たまたま南三陸町庁舎にある役場にはいらっしやらなかったため、命を救われました。その体験から、震災の記録を残し、この教訓を後世に伝えたいという使命に駆られこのラーニングセンターを立ち上げました。

「いりやど」に到着後、夕食をとり、20時30分から夕涼み会のリハーサルを行いました。最終点検のため、慎重に練習を行い、改善点を出し合い、明日出会う復興住宅の方々に最高の演出をお届けするために夜遅くまで打ち合わせをしました。その後22時に入浴し、23時に就寝しました。

<発表者:2年竹内美月>

7月16日、2日目の朝は6時に起床し6時30分からラジオ体操を行い、宿舍周辺を散策しました。散策では「YES 工房」を訪れました。「YES 工房」は廃校を使用して商品の制作、販売を行っています。この「YES 工房」の名前は「廃校」を使用していること、震災から立ち直るといふ前向きな返事の「はい」を心がけるといふことに由来していると伺いました。7時から朝食をとり、部屋の掃除、荷物の積み込みを行いました。9時から「311 メモリアル」に訪れ、見学をしました。ここでは実際に来た津波の高さを確認したり、地震が及ぼした被害を、映像を通して学びました。10時10分から戸倉中学校・志津川・復興祈念公園をまわり語り部の遠藤さんのお話を伺いました。その後「サンサン商店街」で昼食をとり、お土産の買い物もしました。サンサン商店街を出発後、入谷復興住宅を訪れ、交流会と夕涼み会の準備に取り掛かりました。14時からワークショップ、17時からは夕涼み会を実施しました。ワークショップではものづくりを中心に復興住宅の方々と交流しました。水遊びでは、シャボン玉や水鉄砲を用意し、開けた場所を復興住宅にお住まいのお子さんたちと走り回りながら交流しました。うちわづく

りでは自分の好きなキャラクターを用意した真っ白なうちわに描いてもらいました。スライムづくりでは好きな飾りを混ぜたりして自分だけのオリジナルスライムを、会話を楽しみながら作っていただきました。ゲームでは、オセロ、トランプ、将棋などを西脇高校生と対戦していただきました。プラバンづくりでは用意した見本のイラストを参考にしながらイラストをかいたり、自分の好きなイラストを描いてもらったり、また、それを好きな色で塗ってもらったりしました。輪ゴム鉄砲では、一緒に鉄砲を作ってもらったり、作った鉄砲を試し打ちしてもらったりしました。小さいお子さんで鉄砲の作成が難しい場合には既製品を渡して輪ゴム鉄砲を撃つのを楽しんでもらいました。新聞バッグづくりでは会話を楽しみながら一緒にバッグを作り、その作ったバッグに当会場で行ったうちわづくりや輪ゴム鉄砲の完成品を入れるなどして活用していただきました。仮設訪問では事前に作成していた播州織を利用したうちわや、生活情報科の生徒が作成した花をお渡ししました。

17時からの夕涼み会では屋台とステージを中心に活動を行いました。屋外でワッフル、焼き鳥、焼きそばパン、缶ジュース、屋内で花寿司などの飲食物を提供すると同時に、ステージではダンス、クイズ、ビンゴ、歌などを開催、披露しました。クイズではなぞなぞや兵庫県についての問題、曲名当てを行いました。幅広い世代の方に楽しんでいただきました。ステージの最後には会場にいる人達全員で「花は咲く」と「しあわせ運べるように」を合唱しました。

東北ボランティアが終了し、学校へと帰ってから行ったアンケートでは、多くの人が災害の恐ろしさについて学ぶことができたという回答しました。また、進路についても、看護系や消防系に進みたいと考える人が多々いました。東北ボランティアに参加して大いに成長できました。

続いて、参加者の感想を紹介します。

<朗読:小林さん>

(生徒A 2年生)

私がこの東北ボランティアに参加して学んだことは震災の恐ろしさ、そして命のありがたさです。建物や写真映像に驚くと同時に恐ろしさを感じました。語り部さんから聞く話はつらく、そして今ある命のありがたさを教えてもらえるものでした。明日が来るのが当たり前だと思っていた日々を突如奪われた語り部さんのお話を聞き、今命があることは普通ではないということを改めて感じました。復興住宅でのワークショップ、屋台は大成功だったと思います。この計画は様々な人の協力のもと成り立っており、現地に行かない人の分まで東北で頑張ろうとみんな一生懸命頑張りました。思うようにいかない場面もたびたびありましたが、本番で成功できたのはみんなが声を掛け合って助け合えたからだと思います。本番では小さな方からご年配の方まで様々な方が来てくださいました。復興住宅に住む方が「西脇高校生は素晴らしいとても元気ができました。」と声をかけてくださいました。その言葉を聞いてここまで頑張ってきてよかったと心の底から思いました。最後

にみんなで『花は咲く』を歌ったときに語り部さんやその場にいたたくさんの方々が歌を口ずさんでいるのを見て、この方々は強い気持ちで震災を乗り越えたのだと感動したことを鮮明に覚えています。最後の反省会ではその場にいたみんなが涙ぐんでいました。涙が出るのは本当に頑張った証拠と言ってもらい、この東北ボランティアにきて本当に良かったと思いました。めったに経験できない貴重な体験ができ充実した三日間でした。今後私たちに、直面する様々な出来事において今回学んだことを生かしたいと思います。

<朗読:藤原くん>

(生徒B 2年生)

夕涼み会では焼きそばパンを担当していて、トレイに載せて配り歩くと、みんな笑顔で「ありがとう」と言って受け取ってくれたので、喜んで頂いているのだと思い、うれしかったのと同時にもっと力になれたらと思いました。東北ボランティアに参加して自然災害の恐ろしさを見聞きし、現地に行ってこそわかることや現地の方々が温かく接してくれたことを、ほかの人々にも知ってもらいたいと思いました。私は今回の東北ボランティアで生きることに、命についての価値観がずいぶん変わりました。そして誰かに喜んでもらうことがどれだけうれしく感じるかを学びました。私は今回のボランティアに参加して心の底からよかったと感じます。

<朗読:竹内さん>

(生徒C 3年生)

今回の東北ボランティアに参加して学んだことは周りを見て自分で積極的に動くことの大切さです。私たちは夕涼み会でするワークショップや屋台の準備を限られた時間内で進めてきました。その中でチームのメンバーと役割を分担し、それぞれが準備に積極的に関わることが不可欠でした。ほかにも屋台と出し物を同時に進めていくうえで、屋台に誰もいなくなるないように調節しました。2日目の311メモリアルで見たビデオの内容で当時中学生であった人たちがインタビューを受けていました。その中に出てきた人たちは自分の体で人を温めたり人口呼吸や心臓マッサージをしたり、津波に飲み込まれた人を、体操服をつなげてロープのようにして助けたりしていました。もし私がその場にいても、きっと私にはできないと思いました。これらのことを通して私は改めて自ら動くことの大切さを学びました。

<朗読:小林さん>

(生徒D 2年生)

私は語り部さんの『会いたいもん』という言葉にとっても考えさせられました。会いたくても会えない人がたくさんいて、それでも前向きな気持ちで明る

く私たちに接して下さって、本当に強くて素晴らしい人だと思いました。私は大きな災害で大切な人を亡くした経験はないですが、もし自分に同じことが起こったら立ち直れるだろうか考えた時に支える側の人は必ず必要だと思いました。だから、できるだけ多くの被災者の方に笑顔になって頂ける今回のような活動は意義があるし、今後も参加していきたいと思いました。

<朗読:藤原くん>

(生徒E 2年生)

東北ボランティアでは、たくさんの方のことを学びました。その1つは行動力です。ボランティアをしている時、今何が足りていないのか、何をすることがあるのかを考え、それを自ら行動に移す力です。「ボランティア」であるので決まった仕事は与えられず、自分から動かないと何もすることができないということを改めて実感しました。最初はおどおどしてしまって周りを見ているだけだったり、誰かの手伝いをしたりすることしかできなかったのが、最後は自分から動いて運営や片付けをすることができました。ほぼ2日という短い時間でこれだけ自分が成長できたことに驚き、それと同時に実践は大事だと思いました。いつも考えるだけで行動に移せなかったのですが、これからは誰かに背中を押してもらわなくても自分から動けると少し自信が持てました。

<朗読:竹内さん>

(生徒F 2年生)

私自身、海から遠く離れた山間部に住んでいるということもあって、津波というものについてあまり深く考えたことはありませんでした。しかし、実際に津波が来たと言われる高さを確認したり、南三陸町の防災庁舎を見たりして、津波の恐ろしさを実感しました。3階建ての鉄骨の大きな建物が波に飲まれ、壁が砕かれ、鉄骨が曲げられてしまう津波の勢い、破壊力は私の想像をはるかに上回っていました。災害の脅威と同時に命のもろさ、儚さを感じました。災害がやってくると避難しかありません。自然は私たちに恵みを与えてくれると同時にいとも簡単に命を奪ってしまいます。対策をするしか対処できない、防災を考え続けることの重要性を学びました。

ワークショップや夕涼み会ではさまざまな年代の方々と交流ができました。お帰りになるときに、「楽しかった」「ありがとう」と言って下さりとても嬉しかったです。この活動に参加できて本当に良かったと思いました。

最後に、本日は私たちの発表に貴重なお時間を頂いていますが、ぜひ今後の活動のアドバイスや情報提供していただけたら、ありがたいです。どうかよろしく願いいたします

今後のプログラム

9月11日(月) 担当:雑誌広報委員会

9月18日(月) 休会

10月2日(月) 「卓話」圓井会員、藤井(雅)会員

9月17日(日) 親睦家族例会

9月25日(月) 「卓話」八馬会員、金田会員

10月9日(月) 休会

高瀬会長のテーマ : 職業人としてプライドを持とう!